

京都府立図書館 特別展示

芳醇なる京の酒文化

平成 29 年は酉年。お酒の文字をよく見ると、この“酉”の文字が入っています。なんでも、お酒に関係する漢字には必ず“酉”の字が使われているそうです。新年を寿ぐときにも、お酒は欠かせないものです。

京都は言わずと知れた酒どころ。京都市では、全国に先駆けて「乾杯条例」が制定されたほどです。良水に恵まれた府内には、多くの蔵元があります。

蔵元のあるところに酒文化あり、そんな酒文化を感じられる様々な資料を、展示とともにご紹介します。

期間 平成 29 年 1 月 5 日(木)～3 月 22 日(水)

※特別整理期間(2 月 20 日～3 月 2 日)は休館

場所 京都府立図書館 1 階小展示コーナー他
(京都市左京区岡崎成勝寺町 9)

資料概要

今回の資料の一部を御紹介します。

- 京の酒
『日本酒ガールの関西ほろ酔い蔵さんぽ』 松浦 すみれ/文と絵 コトコト (2015)
- 京都の酒場案内
『呑み鉄、ひとり旅』 芦原 伸/著 東京新聞 (2016)
- 日本酒
『ちいさな酒蔵 33 の物語』 中野 恵利/著 人文書院 (2015)
- 日本酒をめぐる道具たち
『盃と徳利』 小山 富士夫/編 徳間書店 (1963)
- 作家と日本酒
『御馳走帖』 内田 百閒/著 中央公論社 (1979)

各種展示

資料のほかにも、館内各所で様々な展示を行っています。

- パネル展示 京都の清酒の甘辛・濃淡グラフ、京都の酒蔵元マップ
- 現物展示 ミニ酒樽 16 本、赤米酒「伊根満開」「弥栄鶴」
- 雑誌展示 『婦人公論』「京都と酒と演劇は僕のルーツ」佐々木蔵之介 等

協力：京都府酒造組合ほか